読んだ本　（加古里子　ぶん／え）　福音館書店

「地球　その中をさぐろう」

川崎市立末長小学校三年　小路（こみち）　祥平（しょうへい）

白い表紙を開くと、ぼくたちの歩いている地面の下、地球の中はどうなっているのか書いてあった。たとえば、植物の根の長さ、生き物のすみか、建物の下のコンクリートくいや地下通路。本をめくるたびに、次はどんな地球の中が出てくるのかなとわくわくした。地球の中でとくにおどろいたところが三つある。

一つ目は、海の底の地面はでこぼこだということにびっくりした。海の底は平らだと思っていたからおどろいた。地球のおす力で地面が曲がったり、もり上がったりして、でこぼこになったそうだ。「地球って動いているんだ。生きているみたいだな。」と思った。そういえば五月に城ヶ島に行ったとき、海岸が同じようにでこぼこだったことを思い出した。

二つ目は、地面から地球のまん中までは、なんと六千四百キロメートルもあるそうだ。今度帰せいする山口のおじいちゃん家まで、約六百キロメートルあると母が言っていた。その十倍のきょり。歩いて行ったら、何日ぐらいかかるのだろうと思った。地球の中には、「マントル、コア」というしゅるいの層があるそうだ。本では、地球の中をゆでたまごにたとえていた。かたまった白みがマントルで、まだどろどろしている黄みがコア。どろどろしていると書いてあるけど、地面がやわらかいなんてどれくらいの熱さなんだろうと思った。

三つ目はとても大きいと思っていた地球は、宇宙の中では、小さいことだ。あといつも見ている太陽は近くにあると思っていたけど、実は地球と太陽のきょりはとても遠くて、ぼくがまだ分からない大きな数だった。

この本を読んで地球の中のことがたくさん分かった。まだ科学者たちも知らないことがあるそうだ。でも科学者たちは、いろいろな工夫をして調べてきた。そのことを知ってぼくもまだ知らない地球の中を探ってみたいと思った。